

- P1~3 企画展 江若鉄道の思い出
- P4 ミニ企画展 小野神社の大般若経Ⅱ
- P5 ミニ企画展 西教寺伝来の屏風
- P6 学芸員のノートから
『大般若経』の中から「奈良写経」

企画展

江若鉄道の思い出

平成27年3月7日(土)～4月12日(日)



安曇川を渡る 昭和44年 福田静二氏撮影

企画展
江若鉄道の思い出

平成27年3月7日(土)～4月12日(日)

◇今も語り継がれる江若鉄道

昭和44年(1969)、国鉄湖西線の建設にともない、琵琶湖西岸の重要な交通機関であった、江若鉄道が廃線となりました。近江と若狭から1文字ずつ取った社名が示す通り、滋賀と福井を結ぶ鉄道として計画された江若鉄道は、大正10年(1921)の三井寺一叡山駅間を皮切りに、昭和6年(1931)には浜大津―近江今津駅間が開通しました。残念ながら、若狭までの延伸は実現しませんでした。湖西をむすぶ鉄路として長年にわたって愛されてきました。またこの鉄道は、沿線住民が株主となることで実現した経緯もあります。このこともあってか、廃線から45年余が経過した今も、多くの人々に語り継がれています。

◇写真やスケッチなどの懐かしい「記録」

江若鉄道に関する記録は、廃線になった昭和44年を中心に、多くの方が記録を残されました。これらは沿線各駅の風景を描いたスケッチブックや、夏の水泳客輸送のにぎわいを記録した写真アルバム、廃線の様子を記録した写真など様々です。また、ある鉄道ファンは、近年、当時の写真などから浜大津駅や三井寺下駅などの精巧なジオラマを作られました。今回はこれらの懐かしい資料を、記録された方々のエピソードとともにご紹介します。

◇みなさんの「思い出」で綴る展覧会

また、これらの記録を見ていると湧きあがってくるのが江若鉄道の思い出です。会場内には、これまで博物館にお寄せいただいた、江若鉄道のみなさんの思い出をご紹介します。お越しになったみなさんの思い出も、是非そこに書き加えてください。

懐かしい写真などから、みなさんの記憶を思い起こしていただくことで、ご一緒に当時の思い出を共有し、それらを後世へと伝えていく。そんな展覧会になればと考えています。

◆インフォメーション◆

主催／大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・京都新聞 協力／高島市教育委員会

後援／NHK 大津放送局・BBCびわ湖放送・エフエム滋賀

観覧料／一般：400円(320円) 高大生：300円(240円) 小中学生：無料

※()内は前売、15名以上の団体、大津市内在住の65歳以上の方、大津市内在住の障害者の方の割引料金
休館日／月曜日

企画展関連書籍

江若鉄道の思い出 ありし日の沿線風景

大津市歴史博物館編 サンライズ出版刊

A5版・128ページ 1,728円(1,600円+税)

2月中旬 大津市歴史博物館および書店にて発売



浜大津駅ジオラマ

浜大津駅の他、三井寺下駅・白髭駅・高島町駅の様子を再現した、精巧なジオラマ（西村雅幸氏制作）



近江木戸駅で行なわれた廃線時の式典

各駅のホームや沿線には多くの人がつめかけ、江若鉄道の最後を見送った。（昭和44年 大津市歴史博物館蔵）



三井寺下駅スケッチ

浜大津から近江今津までの沿線の風景を写しとったスケッチ（昭和40年代 赤井泰山画）



夏の浜大津駅前のにぎわい

水泳客で混雑する浜大津交差点。水泳場へ向かう列車は満員だった。（昭和43年 江若交通株式会社蔵）



稲刈り時期の風景・日吉駅付近（昭和44年 福田静二氏撮影）

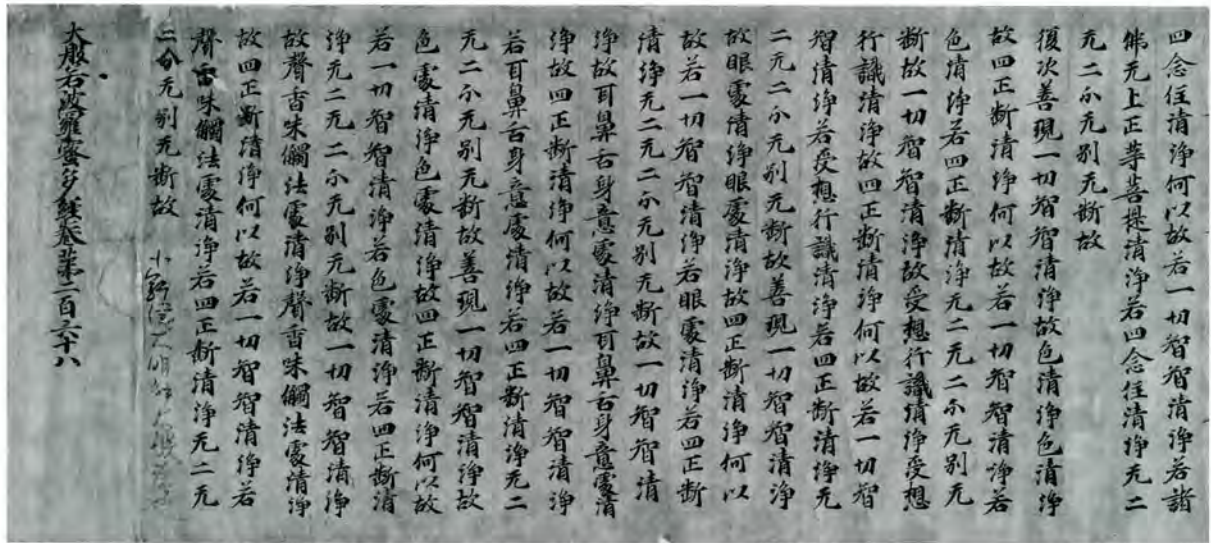
《いただいた「江若鉄道の思い出」から》
 田んぼでの楽しみは、忘れた頃にやってくる江若鉄道に、3才下の弟と並んで「さよなら」と手を振る事。
 私達に気付いた方や車掌さんが手を振って下さる事が嬉しかった。

小野神社の大般若経Ⅱ

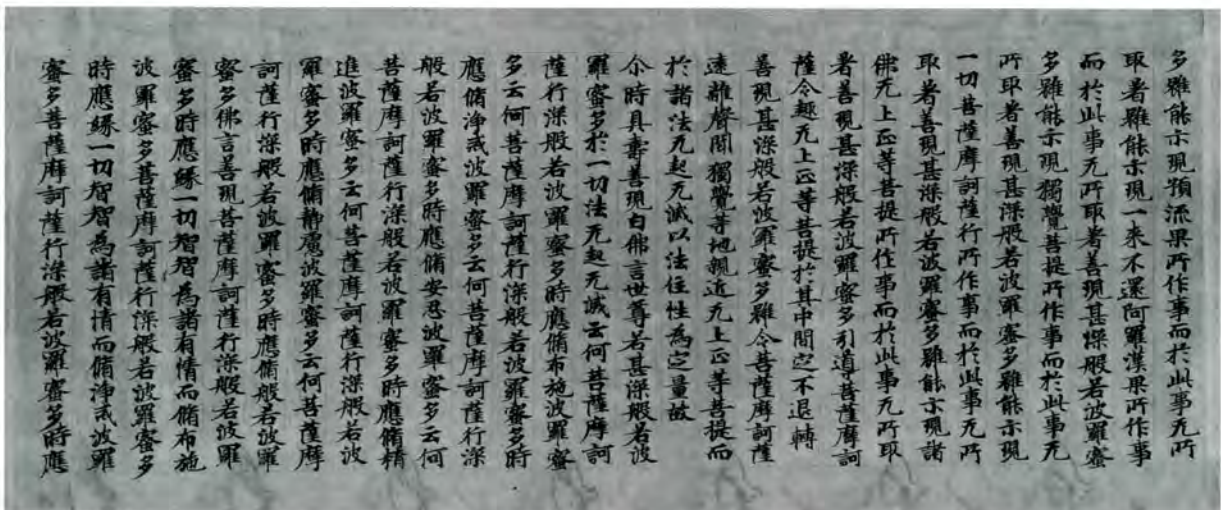
会期：平成27年1月20日（火）～3月1日（日）

遣隋使小野妹子ゆかりの地として知られる大津市小野に鎮座する小野神社には、大般若経が600巻、鎌倉時代の箱と経帙とともに伝来しています。歴史博物館では、小野に伝わる貴重な文化財であるこの大般若経を保護するため、すべてを受託して現在その実態調査を進めているところです。

さて、今回のミニ企画展では、平成26年夏に博物館実習で調査した第236巻から392巻の157巻(全600巻の内)のうち、その書体から奈良時代(8世紀後半)の書写である可能性のあるものをはじめとして、経箱や経帙、そして釈迦十六善神図などを展示します。



第268巻



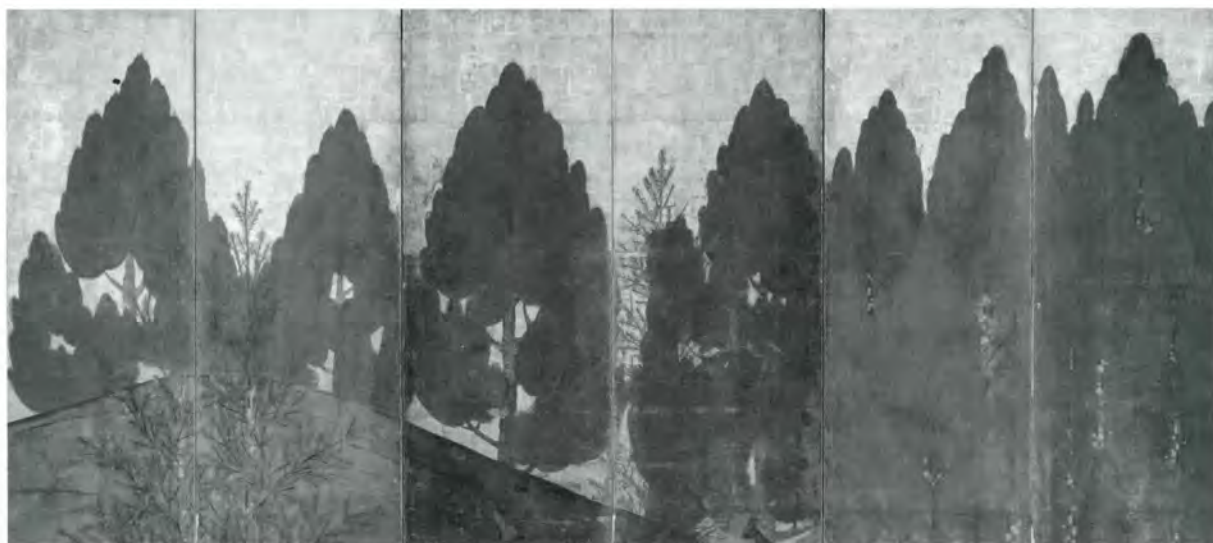
第355巻

大般若経(全600巻のうち) 奈良時代 小野神社蔵

西教寺伝来の屏風

会期：3月3日（火）～4月12日（日）

大津市坂本にある天台真盛宗総本山西教寺には、仏教美術の優品以外にも、客殿の障壁画群をはじめとして多くの近世絵画が伝来しています。そのなかには桃山時代から江戸時代にかけて描かれた屏風が含まれており、花木図や唐子図、風俗図を主題にしたものが見られます。そこで本展では、大津市指定文化財「紙本金地著色杉木立図屏風」や「紙本銀地著色唐子遊図屏風」、「紙本著色風俗図屏風」など、西教寺に伝来する近世屏風を紹介します。



大津市指定文化財 紙本金地著色杉木立図屏風 桃山時代 西教寺蔵



紙本銀地著色唐子図屏風 江戸時代 西教寺蔵

『大般若経』の中から「奈良写経」

4頁で紹介しているミニ企画展「小野神社の大般若経Ⅱ」を開催するにあたり、歴史博物館では、事前に様々な形で調査を行いました。今回はその様子をちょっとお話ししましょう。

大般若経は全部で600巻もある膨大なもので、しかも小野神社のものはすべて卷子ですので、見るだけでもかなりの時間と手間がかかります。そこで当館では、平成25年度から博物館学芸員課程の実習生(約30人)と一緒に調査を行っています。そのようななか、平成26年夏に実施した分の中から、奈良時代(8世紀後半)の書写ではないかという経典が3巻みつかりました。そこで当館ではもう少し詳しい調査を行うことにしたのです。

まず、市内にある龍谷大学の「古典籍デジタルアーカイブ研究センター」のご協力をえて行った紙質調査では、高解像のデジタル顕微鏡を使用し、使われている紙の漉き方や材質について精査しました。その結果、第355巻は楮紙で、さらに繊維が曲線を描いて絡み合うことから「溜め漉き」の技法であることがわかりました。我が国では平安時代以降、「流し漉き」(繊維が比較的まっすぐに絡み合う)が主流になっていきますが、この「溜め漉き」は中国製、もしくは我が国では奈良時代に流行したものです。ゆえに「溜め漉き」であるこの紙が漉かれたのは、おおよそ8世紀ではないかと判定しました。さらに第268巻や359巻も同じく楮紙の溜め漉きである事がわかり、やはりこれらも奈良時代の紙である可能性が出てきました。このように紙の漉き方でおおよその時期が推測できました。

さらに経典の専門家である大阪大谷大学の宇都宮啓吾先生とともに、書風や訓点、形態といった書誌的な詳細調査を行いました。その結果、第355巻は、太くどっしりとした扁平な字体、肉太で重厚な雰囲気をもち、その書風は奈良時代後期の他の経典と近似していることと、さらに紙の幅が平安時代前半以前の料紙サイズである56~57センチという大きさであることなどから、奈良時代後期(8世紀後半)の書写であると結論付けました。さらには第268巻も奈良時代後期、第359巻は奈良末~平安初期と推測しました。

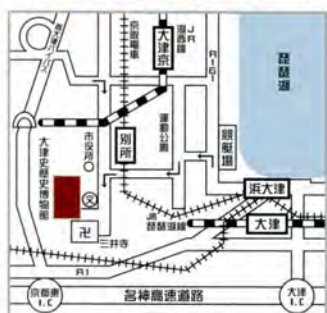
大般若経(全600巻)は、欠本や破損が生じた場合には、新たに書写したものを加えるか、もしくは他に伝来しているものを充填し、600巻を維持している例が多くみられます。小野神社の場合も、上記の巻が失われた際、別の所にある大般若経の当該巻を充填したわけですが、それが本体(平安~鎌倉時代がメイン)よりも古い奈良時代のものだったということが、今回の調査でわかったのです。神社や氏子さんたちがいかにこの大般若経を代々大事にしてきたかがわかりますね。

(当館学芸員 寺島典人)



龍谷大学の紙質調査風景

ご利用案内



交通機関

- ・京阪電鉄石山坂本線「別所」駅下車 徒歩5分
- ・JR湖西線「大津京」駅下車 徒歩15分

駐車場 約70台(無料)

■常設展示観覧料

| 区分 | 個人 | 団体(15名以上) |
|---------|------|-----------|
| 一般 | 270円 | 210円 |
| 高校生・大学生 | 200円 | 160円 |
| 小学生・中学生 | 130円 | 100円 |

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

■開館時間

午前9時~午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

■休館日

月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館)
 祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
 年末年始(12月27日~1月5日)
 その他、業務の都合により休館する場合があります。

— 歴博カードのご案内 —

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。(1年間有効)

| 料金 | 一般 | 高大学 | 小中学 |
|----|--------|--------|--------|
| | 2,000円 | 1,500円 | 1,000円 |

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号
 TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.97 平成27年2月1日